

教科名	社会科	科目名	地理 歴史	
対象学年	中学1年	コース・選択	—	
単位数	3時間/週	教科書 (出版社)	『中学生の地理』 (帝国書院) 『中学校社会科地図』 (帝国書院) 『中学社会 歴史』 (教育出版)	
使用教材	問題集『地理の学習①』(浜島書店) 問題集『ウイニング 歴史Ⅰ』(好学出版) 資料集『改訂 資料カラー歴史』(浜島書店)			
学習のねらい	<p>地理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の自然、産業などを概観し、私達が生活する現代社会の地理的環境について基礎的な理解を図る。</li> <li>・世界の地域や国々の中から、幾つか選んで、自ら調べまとめて発表する能力を身につける。</li> </ul> <p>歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原始・古代から中世に至る日本の歴史を概観し、現代の日本との歴史的なつながりを理解する。</li> <li>・日本史の背景となる世界史上の出来事についても、可能な限りとりあげ、歴史を同時代の横のつながりの中でとらえられるようにする。</li> </ul>			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学期・月等	単元
	4月	『中学生の地理』 第1部 世界と日本の地域構成	10月	第5節 南アメリカ州 第6節 オセアニア州 『中学社会 歴史』 第2章 原始・古代の日本と世界 1 人類の出現と文明のおこり
	5月	第2部 世界のさまざまな地域	11月	2 日本の成り立ちと倭の王権
	6月	第2章 世界の諸地域 第1節 アジア州 第2節 ヨーロッパ州	12月	
	7月		1月	4 貴族社会の発展 第2章 中世の日本と世界 1 武家政治の始まり
	9月	第3節 アフリカ州 第4節 北アメリカ州	2月	2 ユーラシアの動きと武家政治の変化 3 結びつく民衆と下克上の社会
	3月			
学習の留意点・評価など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理は、地図帳の積極的な活用を心がける。</li> <li>・歴史は、学習内容に合わせて、地元の歴史(愛知県など)についても、随時取り上げる。</li> </ul>			

教科名	社会科	科目名	地理 歴史	
対象学年	中学2年	コース・選択	—	
単位数	3単位	教科書 (出版社)	『中学生の地理』 (帝国書院) 『中学校社会科地図』 (帝国書院) 『中学社会 歴史』 (教育出版)	
使用教材	問題集『地理の学習②』(浜島書店) 問題集『ウイニング 歴史Ⅰ・Ⅱ』(好学出版) 資料集『改訂 資料カラー歴史』(浜島書店)			
学習のねらい	<p>地理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の自然、産業などを概観し、私達が生活する現代社会の地理的環境について基礎的な理解を図る。</li> <li>日本の地域の中から、幾つか選んで、自ら調べまとめて発表する能力を身につける。</li> </ul> <p>歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近世から明治時代に至る日本の歴史を概観し、現代の日本との歴史的なつながりを理解する。</li> <li>日本史の背景となる世界史上の出来事についても、可能な限りとりあげ、歴史を同時代の横のつながりの中でとらえられるようにする。</li> </ul>			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学期・月等	単元
	4月	『中学生の地理』 第3部 日本のさまざまな地域 第1章 身近な地域の調査 第2章 日本の地域的特色	10月	7節 北海道地方 『中学社会 歴史』 第4章 近世の日本と世界 1 結びつく世界との出会い
	5月	第3章 日本の諸地域 1節 九州地方	11月	2 天下統一への歩み
			12月	3 幕藩体制の確立と鎖国
	6月	2節 中国・四国地方 3節 近畿地方	1月	第5章 日本の近代化と国際世界 1 近代世界の確立とアジア
	7月	4節 中部地方	2月	2 開国と幕府政府の終わり
9月	5節 関東地方 6節 東北地方	3月		
学習の留意点・評価など	<ul style="list-style-type: none"> <li>地理は、地図帳の積極的な活用を心がける。</li> <li>歴史は、学習内容に合わせて、地域の歴史(愛知県など)についても、随時取り上げる。</li> </ul>			

教科名	社会科		科目名	歴史・公民	
対象学年	中学3年		コース・選択	—	
単位数	4時間/週		教科書 (出版社)	『新中学校 歴史』(清水書院) 『中学社会公民』(教育出版)	
使用教材	問題集『ウイニング 歴史Ⅱ』(好学出版)、「新ワーク」(好学出版) 資料集『改訂資料カラー歴史』(浜島書店)、新しい公民(浜島書店)				
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近世から明治時代に至る日本の歴史を概観し、現代の日本との歴史的なつながりを理解する。</li> <li>・現代日本の政治・経済について基礎的な理解を図り、時事的な問題に対しても関心が持てるようにする。</li> </ul>				
学習内容と流れ	学期・月等	単 元		学期・月等	単 元
	4月	『新中学校 歴史』 第4章 近代化の進む世界と日本 3 明治維新と文明開化 4 立憲政治のはじまり 5 アジアの近代化と日本の動き		10月	第3章 私たちの暮らしと民主政治
	5月	6 日本の産業革命と社会の変化 第5章 二つの世界大戦と日本		11月	
	6月	第6章 現代の日本と世界		12月	第4章 私たちの暮らしと経済
	7月			1月	
	9月	『中学社会公民』 第2章 人間を尊重する日本国憲法		2月	第5章 安心して暮らせる社会
			3月	第6章 国際社会に生きるわたしたち	
学習の留意点・評価など	歴史分野については、地域の素材も適宜取り上げる。 公民分野については、新聞レポートなどを適宜課す。				

教科名	地理歴史科	科目名	歴史総合	
対象学年	高校1年	コース・選択	必修	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	明解歴史総合(帝国書院)	
使用教材	明解歴史総合図説シンフォニア(帝国書院)			
学習のねらい	日本が国際社会の中で、どのようにして近代国家を建設し、戦争の悲劇を乗り越え平和国家を築いてきたかを、諸資料に基づき考察する。考察を通して、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学習内容	考える力
	4月	第2節 明治維新 ①黒船がやってきた ②志士たちの時代 ③手を結ぶ薩長 ④近代との出会い ⑤江戸が東京になった	・開国に至る経緯と、幕府の対応について理解する。 ・開国以後の情勢について、幕府が崩壊した一連の流れを理解する。 ・幕末から明治初期の使節・留学生の派遣、外国人の招聘により欧米文化が導入されたことを理解する。	開国に至る要因と開国の影響をコンセプトマップで表現する。
	5月	第3節 近代国家の確立 ①天皇の軍隊がつけられた ②スローガンは「富国強兵」 ③欧米文化がはいつてきた ④日本の国境が定まった ⑤爆発する農民や士族の不満	・明治政府の初期の諸政策によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。 ・明治政府の強硬な近代化政策に、農民や士族が抵抗を示したことを理解する。	風刺画を読み取る。
	6月	⑥国会開設が決まった ⑦地主制が進行した ⑧立憲政治がはじまった ⑨国会がはじめて開かれた 第4節 対外関係の変化 ①欧米と肩を並べる国をめざして ②清国との対立が深まった ③ロシアとの戦争がおこった ④アジアへの侵略がはじまる	・明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し、自由民権運動がおこり、国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る、一連の動きを理解する。 ・初期の外交政策は、欧米に対しては不平等条約の改正、一方、アジア諸国に対しては強硬な態度で臨んだことを理解する。 ・明治前半では、条約改正が最大の外交課題であり、この克服においては、国際情勢と国内情勢の推移が密接に関係し、進められたことを理解する。 ・日清・日露戦争の経緯と結果、また、この戦争を経て、アジアに対して日本が勢力の拡張をおこなったことを理解する。	風刺画を読み取る。
	7月	第5節 政党政治の展開 ①藩閥と政党が接近した ②民衆が政治を動かすはじまった ③「平民宰相」が登場した	・明治後半から大正期において、国内的に政党政治が展開したことを理解する。	

学期・月等	単元	学習内容	考える力	
学習内容と流れ	9月	第2章 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢 第1節 近代産業の発展と社会運動の展開 ①日本の生糸が世界を制する ②欧米の資本主義に仲間入りした ③貧富の差が広がった ④抑圧からの解放をもとめて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日清・日露戦争の過程で、日本に産業革命がおこり、資本主義が確立したことを理解する。</li> <li>・資本主義の発展によって産業構造が変化し、これにともない、都市における貧民問題や労働問題など、さまざまな社会問題が発生したことを理解する。</li> <li>・社会運動の広がりとともに、大正期には女性解放運動が展開したことを理解する。</li> </ul>	世界史で学習した帝国主義の枠組みの中でとらえる。
	10月	第2節 国民生活の変化と文化 ①明治の国家主義と大正のデモクラシー ②教育が進化した ③多彩な学問と近代文学が発展した ④新しい文化とモダンな都市が生まれた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家主義思想や大正デモクラシーの風潮に着目して、明治期と大正期の思想の違いについて理解する。</li> <li>・国民統制において、教育政策や国家主義的思想が果たした役割について理解する。</li> <li>・明治～昭和初期の文化的業績について理解する。</li> <li>・明治～昭和初期の文化の背景としての都市生活の発展について理解する。</li> </ul>	
	11月	第3節 第一次世界大戦と日本 ①最初の世界大戦に日本も参戦した ②朝鮮・中国の民衆が立ち上がった ③日本は欧米に歩調をあわせた ④成金の時代がやってきた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦に日本が参戦した意図、また第一次世界大戦を通しての日本の外交方針について理解する。</li> <li>・第一次世界大戦後、国際的に民族運動が高まったことについて理解する。</li> <li>・第一次世界大戦が日本に与えた経済的な影響について理解する。</li> </ul>	なぜ日本は二つの世界大戦に参加したのかを考える。
	12月	第4節 第二次世界大戦と日本 ①恐慌の嵐が吹きあれる ②日本の外交が行き詰まる ③軍部の暴走がはじまった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内的な第一次世界大戦以後の慢性的な不況と、国際的な世界恐慌による資本主義諸国の経済危機について把握し、日本および各国が、このような状況をどのように克服していったのかを理解する。</li> <li>・軍部の台頭の過程と、これにともなう政治的な状況の変化について理解する。</li> </ul>	
	1月	④中国との長い戦いがはじまった ⑤戦争の影が文化におよぶ ⑥すべてが戦争に協力させられた ⑦アメリカとの戦争がはじまった ⑧戦争が拡大する ⑨アジア・太平洋の諸民族にかかわった ⑩生活も戦争に染まった ⑪戦争が終わった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国・アメリカを中心とした国際関係の変化にも着目しながら、太平洋戦争に至る過程を理解する。</li> <li>・太平洋戦争に至る過程のなかで、国民生活はどのように変化したのかを理解する。</li> <li>・日本がアジア諸国に対して与えた影響について理解する。</li> </ul>	
学習の留意点・評価など	写真や歴史的絵画使用等の非連続型テキストを読み取る活動を取り入れ、考える歴史の学習へと導く。また、読み取ったことは、できるだけ文章で表現する機会を設ける。非連続型テキストは、プロジェクターを利用し、スクリーンに投影することで観察しやすくする。			

教科名	地歴公民	科目名	地理 A	
対象学年	高校 2 年	コース・選択	コース I 必修	
単位数	2 単位	教科書 (出版社)	新地理A (帝国書院)	
使用教材	新地理A (帝国書院) 現代地図帳 (二宮書店) 新詳地理資料COMPLETE2022 (帝国書院)			
学習のねらい	地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察させる。また、地理的課題の解決に向け、解決策を構想することや、考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論する資質を育成する。これらの学習を通じて、世界の人々とともに共生することができるグローバルシティズンとしての資質を高める。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学習内容	考える力
	4 月	地球上の位置と国家	<ul style="list-style-type: none"> <li>緯度・経度の仕組みについて学ぶ。緯度や経度の違いが、世界各地の暮らしのあり方に影響を与えていることを理解する。</li> <li>世界地図の図法を学ぶ。</li> <li>国家の領域について理解する。</li> <li>国境にはさまざまな形態や性格があることに気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種統計資料を読み取り、社会的事象の因果関係を考察する。</li> <li>グローバル化が進み、多くの情報が得られ、日本の文化・習慣が変化している。その中で、日本の文化・習慣がなぜ異なるのか社会背景をリア記して、比較考察する。</li> </ul>
	5 月	グローバル化が進む世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>東西冷戦の終結とともに国家間の結びつきが軍事的結合から経済的結合へと変化したことを理解する。</li> <li>航空交通の発達により、地球規模での国際交流が活発化したことを理解する。</li> <li>貿易の自由化が進められ、地域内の経済的結びつきを強める協定が拡大していることを理解する。</li> <li>日本における観光の国際化について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通手段の発達により、世界各国のつながりの変遷を考察する。</li> </ul>
	6 月	人々の生活と地形 人々の生活と気候	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川、波や氷河がつくる地形の種類や特徴と人々の生活との関係を理解する。</li> <li>気候の特徴と人間生活との関わりについて考察する。</li> <li>ケッペンの気候区分と分布の特徴を理解する。</li> <li>各気候区の分布や特徴を理解し、それが人々の暮らしにどのような影響を与えているかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各気候区の雨温図を読み取り、共通点と相違点を文章で表現する。各気候区の暮らしの特徴を比較する。</li> </ul>
	7 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>農業の発達と自給的農業・商業的農業について理解する。</li> <li>さまざまな製品をつくる工業の発達と種類について理解する。</li> <li>世界の三大宗教をはじめとする主要な宗教の特徴や、それらが信仰されている地域の分布を捉え、宗教と人々の生活との関わりについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業・工業がどのような背景のもと発展してきたのか考察する。</li> <li>近年の発展途上国の発展による課題を考察する。</li> <li>三大宗教の特色の共通点と相違点を考える。</li> </ul>



	学期・月等	単元	学習内容	考える力
学習内容の流れ	9月	中国の生活・文化 韓国の生活・文化 東南アジアの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内陸部と沿海部、北部と南部の違いに注目して、中国の自然環境の地域差を考察する。</li> <li>・中国が多民族国家であることや、その民族の分布の特徴を捉える。</li> <li>・巨大な人口をもつ中国の人口問題とその解決への取り組みを理解する。</li> <li>・中国の現代の農業と工業の現状と課題について考える。</li> <li>・韓国の歴史、文化、産業の特色を理解する。</li> <li>・東南アジアの多様な民族と文化について理解する。</li> <li>・東南アジアの歴史や、植民地支配とモノカルチャー経済との関係について理解する。その上で、モノカルチャー経済から脱却するため、各国でどのような農業・工業政策が進められてきたかを考える。</li> </ul>	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。東アジアの国々の共通点と相違点を考える。
	10月	インドの生活・文化 中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インド世界と呼ばれる南アジアの国々の歴史と、異なる宗教における対立があったことについて理解する。</li> <li>・インドの農業の展開を、自然環境や技術革新などから理解する。</li> <li>・成長するインドの工業と、経済発展をリードしているIT産業について理解する。</li> <li>・イスラームの歴史やイスラームが人々の生活にどのような影響を与えているかを考える。</li> <li>・この地域の産油国が、石油資源の開発と利用をどのように進めてきたかを理解する。</li> </ul>	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。日本との相違点と共通点を整理する。
	11月	サハラ以南の アフリカの生活・文化 ヨーロッパの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ諸国による植民地支配の歴史と、モノカルチャー経済などに代表される、その影響について理解する。</li> <li>・ヨーロッパのキリスト教に深く結びついた文化と、宗派や言語の多様性について理解する。</li> <li>・地域による自然環境に対応したヨーロッパの農業について理解する。</li> <li>・ヨーロッパではどのような工業がさかんなのか、産業の発達の歴史と、近年の工業地域の変化とその特徴を理解する。</li> <li>・EUの歴史と現在の課題について考える。</li> </ul>	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。日本との相違点と共通点を整理する。
	12月	ロシアの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシアの自然環境と人々の暮らしの特徴を考える。</li> <li>・ロシア革命、冷戦、冷戦終結という時代の流れの中で、政治体制や経済がどのように変化してきたかを理解し、現在の課題を考える。</li> </ul>	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。日本との相違点と共通点を整理する。

	学期・月等	単 元	学習内容	考える力
学習内容と流れ	1月	アメリカ合衆国の生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移民の歴史に注目し、多民族・多文化の社会が形成された過程を理解する。</li> <li>・ アメリカ合衆国の自然環境に適した農業・地域の特徴とその背景について理解する。その上で、現在の課題について考える。</li> <li>・ アメリカ合衆国における工業の変遷と課題について考える。</li> </ul>	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する日本との相違点と共通点を整理する。
	2月 3月	ラテン・アメリカの生活・文化 オーストラリアの生活・文化 地球的課題と私たち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラテンアメリカの歴史的背景と各国の人種・民族構成の違いについて理解する。</li> <li>・ 先住民とさまざまな地域の文化や伝統が融合した、ラテンアメリカの独特な文化について理解する。</li> <li>・ オーストラリアの多文化社会はどのように形成されてきたのか、移民の出身国の変化をもとに理解する。</li> <li>・ オーストラリアとアジア太平洋との結びつきが強まったことを、貿易や経済機構を通して理解する。</li> <li>・ 自然環境に適した農業が行われていることを理解する。</li> <li>・ 鉱産資源やエネルギー資源の豊富なオーストラリアの鉱工業について理解する。</li> <li>・ 地球的課題として、環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題について学び、考える。</li> </ul>	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。日本との相違点と共通点を整理する。
学習の留意点・評価など	映像資料を利用し、世界の文化や暮らしの様子を具体的にイメージしやすいように工夫する。各国の文化や社会の特色を考えさせる際に、思考ツールを利用させることで比較・分析を容易にする。			



教科名	地理歴史科	科目名	日本史A	
対象学年	高校2年	コース・選択	コースII	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	改訂版日本史A (山川出版社)	
使用教材	日本史Aノート (山川出版社) 新詳日本史 (浜島書店)			
学習のねらい	幕末・明治維新から現代までの学習で近代日本の流れを理解し、また日本の近代化を支えた人々について学習し、その役割を理解する。なお、留意点としては、受験科目である日本史Bとのつながりを意識し、受験生への配慮を要する。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学習内容	考える力
	4月	序章 近世社会の動揺と政治改革 1. 幕藩体制の動揺と政治改革 2. 新しい経済構造と学問の芽生え 3. 日本をとりまく世界の変容	幕府の政治体制がどのように揺らいでいったかを理解する。	グラフ、図、資料などから、その時代の社会状況を考えさせるように指導する。
	5月	第1章 開国と明治維新 1. 幕藩体制の動揺と政治改革 2. アジアの激動と日本の開国 3. 明治維新 4. 富国強兵 5. 明治初期の外交 6. 殖産興業と文明開化	時代背景として世界情勢を把握しながら、その中で日本がどのような政策をとっていったか、近代化の過程をしっかりと把握する。	
	6月	第2章 立憲国家の成立 1. 自由民権運動 2. 立憲制の成立 3. 立憲政治の展開 4. 日清・日露戦争 5. 産業革命と社会の変容 6. 明治の文化	明治期における立憲政治の成立過程と外交をしっかりと理解する。	
	7月	第3章 第一次世界大戦と日本 1. 政党政治の展開 2. ワシントン会議	第一次世界大戦と日本の関係をしっかりと理解する。	
	9月	3. 経済・社会の変容 4. 市民文化	何故大正時代にデモクラシーの風潮が起こったかを理解する。	
	10月	第4章 昭和の恐慌と満州事変 1. 昭和の恐慌 2. 政党内閣期の内政と外交 3. 軍部の台頭	日中戦争にいたる過程をしっかりと理解する。	
	11月	第5章 第二次世界大戦と日本 1. 日中戦争 2. 重化学工業と統制経済	太平洋戦争への過程を理解する。	

学習 内容 と 流れ	学期・ 月等	単 元	学 習 内 容	考える力
	12月	3. 第二次世界大戦と太平洋戦争	太平洋戦争が日本国民の生活をどう変えたかを理解する。	
	1月	第6章 占領下の日本 1. 占領と改革 2. 冷戦の開始と調和	世界情勢と占領政策がどう関連しているかを理解する。	
	2月	第7章 経済繁栄と保守長期政権 1. 55年体制 2. 高度成長期の経済と社会 第8章 現代の世界と日本	何故日本は戦後復興に成功したかを理解する。	
<b>学習の 留意点・ 評価など</b>	世界の中の日本を意識しながら、日本の近現代史を学ぶ。 流れを自ら考えるように指導し、常に疑問点を考え、それを自分で考える能力を養う。 評価は試験とレポートなどで行う。			
<b>備 考</b>				

教科名	地歴公民	科目名	地理A	
対象学年	高校2年	コース・選択	コースⅢ 必修	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	新地理A(帝国書院) 詳解現代地図帳(二宮書店)	
使用教材	新地理A(帝国書院) 新詳地理資料COMPLETE(帝国書院) 詳解現代地図帳(二宮書店)			
学習のねらい	世界各地域で見られる地形や気候などの環境には、それぞれ特色があり、その特色が人々の生活にどのように影響を与えているかを考えさせる。世界の国々の社会・文化・経済の特色を比較しながらとらえ、その共通点と相違点を分析させる。これらの学習を通して、世界の人々と共に歩むことができるグローバルシティズンとしての資質を育成する。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学習内容	考える力
	4月	地球上の位置と国家	<ul style="list-style-type: none"> <li>緯度・経度の仕組みについて学ぶ。緯度や経度の違いが、世界各地の暮らしのあり方に影響を与えていることを理解する。</li> <li>世界地図の諸図法を学ぶ。</li> <li>国家の領域について理解する。</li> <li>国境にはさまざまな形態や性格があることに気づかせる。</li> </ul>	経緯度地点は球体図形を基に示していることに気づくとともに、地球環境での生活をするために、幾何学的表現と異なる独自の表現、運用がされていることに考えが及ぶようにする。
	5月	グローバル化が進む世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>東西冷戦の終結とともに国家間の結びつきが軍事的結合から経済的結合へと変化したことを理解する。</li> <li>航空交通の発達により、地球規模での国際交流が活発化したことを理解する。</li> <li>貿易の自由化が進められ、地域内の経済的結びつきを強める協定が拡大していることを理解する。</li> <li>日本における観光の国際化について考察する。</li> </ul>	系統地理として進める。陸上・海上・航空交通の長所と短所を考察する。時間距離が縮まることにより、地域間にどんな影響が出、変容したか等を考察する。グローバル化の推進役、自由貿易の役割、長短所を考察する。
	6月	人間生活を取り巻く環境 人々の生活と地形 人々の生活と気候 身近な地域の課題	<p>人々の生活の場は、まず土台となる自然環境があり、その恵みの基に社会環境があることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球球面主要構成の大地形の分布構造と、生活の場と密接な関係の小地形を学ぶ。</li> <li>世界の生活環境の違いをケッペンの気候区分分布から理解する。人々の暮らしにどんな影響を与えているかを考察する。</li> <li>地形図から電子地図表現の特色を知り、昨今重大化している災害、環境問題の起因、防災、減災害を考える。</li> </ul>	大陸移動説、プレートテクトニクスの理論を考察する。地形図から小地形の特色をつかむ読図演習をする。各気候区の雨温図を読み取り、共通点と相違点を文章で表現する。

学期・月等	単 元	学 習 内 容	考 える 力
7月	人々の生活と産業 人々の生活と文化 グローバル化の中の地域性	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の各農業地域がその地の環境条件に適した作物栽培をしていることを理解する。</li> <li>さまざまな製品をつくる工業の発達と種類について理解する。</li> <li>宗教、言語はじめ様々な文化は各国諸地域に強い影響力がある。その文化圏の共通性、他文化圏との相違点比較を通してそれぞれの地域性を学ぶ。</li> </ul>	各農業地と気候区との適合背景を考える。原料である鉱物資源地も含めて工業立地を考える。三大宗教の特色の共通点と相違点を考える。
9月	中国の生活・文化 韓国の生活・文化 東南アジアの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>内陸部と沿海部、北部と南部の違いに注目して、中国の自然環境の地域差を考察する。</li> <li>中国が多民族国家であることや、その民族の分布の特徴を捉える。</li> <li>巨大な人口をもつ中国の人口問題とその解決への取り組みを理解する。</li> <li>中国の現代の農業と工業の現状と課題について考える。</li> <li>韓国の歴史、文化、産業の特色を理解する。</li> <li>東南アジアの多様な民族と文化について理解する。</li> <li>東南アジアの歴史や、植民地支配とモノカルチャー経済との関係について理解する。その上で、モノカルチャー経済から脱却するため、各国でどのような農業・工業政策が進められてきたかを考える。</li> </ul>	地誌としての空間認識をもって、各国、地方の地域性をつかむ。対象となっている地域単位における自然環境分野と社会環境の特色をつかむための分析、確認作業を行い、その国の地域性を浮かび上がらせる。統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。世界区分の州別地方枠の場合は、同等規模枠や域内の国別比較として共通点と相違点を考えてよい。
10月	インドの生活・文化 中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>インド世界と呼ばれる南アジアの国々の歴史と、異なる宗教における対立があったことについて理解する。</li> <li>インドの農業の展開を、自然環境や技術革新などから理解する。</li> <li>成長するインドの工業と、経済発展をリードしているIT産業について理解する。</li> <li>イスラームの歴史やイスラームが人々の生活にどのような影響を与えているかを考える。</li> <li>この地域の産油国が、石油資源の開発と利用をどのように進めてきたかを理解する。</li> </ul>	同 上
11月	サハラ以南のアフリカの生活・文化 ヨーロッパの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヨーロッパ諸国による植民地支配の歴史と、モノカルチャー経済などに代表される、その影響について理解する。</li> <li>ヨーロッパのキリスト教に深く結びついた文化と、宗派や言語の多様性について理解する。地域による自然環境に対応したヨーロッパの農業について理解する。</li> <li>ヨーロッパではどのような工業がさかんなのか、産業の発達の歴史と、近年の工業地域の変化とその特徴を理解する。</li> <li>EUの歴史と現在の課題について考える。</li> </ul>	同 上

学 習 内 容 と 流 れ

	学期・月等	単 元	学 習 内 容	考える力
学 習 内 容 と 流 れ	12月	ロシアの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシアの自然環境と人々の暮らしの特徴を考える。</li> <li>・ロシア革命、冷戦、冷戦終結という時代の流れの中で、政治体制や経済がどのように変化してきたかを理解し、現在の課題を考える。</li> </ul>	同 上
	1月	アメリカ合衆国の生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移民の歴史に注目し、多民族・多文化の社会が形成された過程を理解する。</li> <li>・アメリカ合衆国の自然環境に適した農業・地域の特徴とその背景について理解する。その上で、現在の課題について考える。</li> <li>・アメリカ合衆国における工業の変遷と課題について考える。</li> </ul>	同 上
	2月 3月	ラテン・アメリカの生活・文化 オーストラリアの生活・文化 地球的課題と私たち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラテンアメリカの歴史的背景と各国の人種・民族構成の違いについて理解する。</li> <li>・先住民とさまざまな地域の文化や伝統が融合した、ラテンアメリカの独特な文化について理解する。</li> <li>・オーストラリアの多文化社会はどのように形成されてきたのか、移民の出身国の変化をもとに理解する。</li> <li>・オーストラリアとアジア太平洋との結びつきが強まったことを、貿易や経済機構を通して理解する。</li> <li>・自然環境に適した農業が行われていることを理解する。</li> <li>・鉱産資源やエネルギー資源の豊富なオーストラリアの鉱工業について理解する。</li> <li>・地球的課題として、環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題について学び、考える。</li> </ul>	同 上
学習の留意点・評価など	<p>地理は空間科学として位置情報からその地域社会の特性、他地域との関係を考察認識する。そのため地図読図は大変重要である。それに合わせて統計資料、グラフ分析も重要になる。また映像資料、具体的物品教材を利用し、世界の諸地域、諸国の文化や暮らしの様子を具体的につかみやすいように工夫する。それらに触れ、地理的思考力、認識力の高まりを見たい。</p>			
備 考				

教科名	地歴公民科	科目名	日本史B	
対象学年	高校2年	コース・選択	コースⅡ（社会教科内選択）	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	詳説日本史B（山川出版社）	
使用教材	詳説日本史B（山川出版社）／詳説日本史整理ノート（山川出版社）／新詳日本史（浜島書店）／日本史用語集（山川出版社）／日本史B一問一答（東進ブックス）			
学習のねらい	原始・古代～中世までにおける日本の歴史について、通史（政治史・外交史を中心に）の理解を深める。中学までに学習した日本史の基礎知識を掘り起こし、かつ前期中等教育では触れることのなかった詳細を正確に認識させる。その上で、大学受験のために必要な基礎知識を定着させ、高3でのさらなる時代の理解につなげられるよう、高2では学習の方法にも意識した授業展開を心がけたい。原始（先土器）から中世（室町・戦国時代）までを履修目標とする。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	1学期 4月	文化のはじまり 縄文時代	○人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。	資料などを基に、各時代の社会背景や流れについて思考させた上で、知識の習得をさせる。各時代の為政者を中心に、政治史を扱う。
	5月 (中間)	弥生時代 古墳時代	○大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて弥生文化の形成を考察する。 ○地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。	
	6月	飛鳥時代 奈良時代（1）	○ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ○律令国家が成立するまでの政治の動向と白鳳文化の形成過程について考察する。 ○律令体制の完成期としての奈良時代について、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。	
	7月 (期末)	奈良時代（2）	○平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。	



学期・月等	単 元	ね ら い	留 意 点
2 学期 9 月	平安時代 (1)	○平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。	
10月 (中間)	平安時代 (2)	○藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察させる。 ○律令制に基づく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園への拡大をもたらした経過を考察する。 ○地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について、源氏などを例にとって考察する。	
11月	平安時代 (3) 鎌倉時代 (1)	○院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ○政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平治政権の特性について考察する。 ○鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。	
12月 (期末)	鎌倉時代 (2)	○承久の乱に伴う公武関係の変化に着目して、將軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を考察する。	
3 学期 1 月	鎌倉時代 (3) 室町時代 (1)	○蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が鎌倉幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ○鎌倉幕府の滅亡、南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。	
2 月	室町時代 (2)	○庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、室町幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ○応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連付けて考察する。	
3 月	(学年末考査)		
学習の 留意点・ 評価など	単なる語句の暗記に陥らないよう、各時代の流れを理解することを重視する。 日本史学習の基礎知識を、大学受験としての定着もふまえて意識・理解させる。 科目や単元(時代)ごとの理解を深め、思考力を養うための探究的な課題を随時取り入れる。 可能であれば、生徒各自で演習を行っていけるよう、学習の方向性を示唆する。		
備 考			

教科名	地理歴史科	科目名	世界史B	
対象学年	高校2年	コース・選択	コースII	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	詳説世界史B (山川出版)	
使用教材	詳説世界史整理ノート (山川出版社) 最新世界史図説タペストリー (帝国書院) 世界史B一問一答完全網羅版 (Gakken)			
学習のねらい	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連づけながら理解し、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を養い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	4月	序章 先史の世界 第1章 オリентと地中海世界	人類が自然環境に適応しながら進化し、農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気づくと同時に、人類と言語の分化を理解する。西アジア世界の風土、オリент文明の盛衰、イラン人の活動を理解する。地中海世界の風土、を理解する。	グラフ、図、資料などから、その時代の社会状況を考えさせるように指導する。
	5月	第2章 アジア・アメリカの古代文明	南アジア・東南アジアの風土と諸民族、インド文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、両世界の形成過程を理解する。東アジアの風土、中国文明の起源と殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。先住民によるアメリカ文明の形成とその特色を理解する。	
	6月	第3章 東アジア世界の形成と発展	東アジアにおける北方民族の動向と、魏晋南北朝という中国における分裂と動乱の時代を理解する。隋唐帝国の国家制度と、隣接する東アジア文化圏諸国の動向を理解する。契丹や女真といった遊牧諸勢力の台頭や日本を含めた東アジア諸地域の勢力交替、宋の興亡と社会や文化の特色を理解する。	
	7月	第4章 内陸アジア世界の変遷	内陸アジアの自然と風土、ここに台頭した遊牧民とその国家の動向を、オアシス民の活動とともに理解する。内陸アジアにおけるトルコ化とイスラーム化の進展を理解する。モンゴル帝国の興亡と、その活動が日本を含む諸地域世界に与えた影響の大きさを理解する。	
		第5章 イスラーム世界の形成と発展	イスラーム成立の背景とその特質を理解する。アラブ人によるイスラーム帝国の発展、イスラーム世界の形成と拡大の過程を理解する。	

	学期・月等	単 元	ね ら い	留 意 点
学 習 内 容 と 流 れ	9月	第5章 イスラーム世界の形成と発展	イスラーム文明の特質とその影響、イスラーム都市を中心としたネットワークの役割を理解する。	コンセプトマップなどを利用して、事項の関連づけを考える。またそのマップを他者に説明することによって、表現する力を養う。
		第6章 ヨーロッパ世界の形成と発展	地中海世界が解体した後、キリスト教を基盤とするヨーロッパ世界が東西に形成され、変動していった過程と、両世界それぞれの独自の性格を理解する。十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向を理解する。教会建築、大学やスコラ学などから、ヨーロッパ中世文化の特色を理解する。	
	10月	第7章 諸地域世界の交流	ユーラシアの陸と海のネットワークを背景に諸地域世界の交流が一段と活発になり、新たな地域世界の形成や再編を促したことを理解する。	
			第8章 アジア諸地域の繁栄	
	11月	第9章 近代ヨーロッパの成立	大航海時代の到来、ルネサンスと宗教改革といったヨーロッパ世界の拡大と変革の動きを理解する。主権国家体制の特色と、それを形成したヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。	
			第10章 ヨーロッパ主権国家体制の展開	
	12月	第9章 近代ヨーロッパの成立	大航海時代の到来、ルネサンスと宗教改革といったヨーロッパ世界の拡大と変革の動きを理解する。主権国家体制の特色と、それを形成したヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。	
	1月			
	2月	第10章 ヨーロッパ主権国家体制の展開	17～18世紀におけるヨーロッパ諸国の動向を、重商主義と啓蒙専制主義を柱として理解する。ヨーロッパ諸国の植民地争奪と大西洋世界の三角貿易のもたらした国際的枠組みを理解する。17～18世紀におけるヨーロッパ文化の特色を理解する。	
	学習の留意点・評価など	まず通史を、あまり細かい事項にとらわれることなく、流れを中心に学ぶ事を心掛ける。授業で学んだ事を、お互いに発表し合うことによって、各々の理解度を確認する。		
備 考				

教科名	地理歴史科	科目名	歴史と地理	
対象学年	高校2年	コース・選択	コースI (2選1)	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	——	
使用教材	プリント・新聞・地図・視聴覚教材など			
学習のねらい	<p>○歴史分野と△地理分野の2人の教師がオムニバス方式で担当し、現代の社会のあるべき姿を考えさせていく。</p> <p>○世界や日本の歴史の流れに大きな影響を与えた人物のうち、可能な限り女性に注目し、その時代背景・女性観・文化などを考察する。</p> <p>△自然環境と社会環境を合わせた地理的環境を通して世界諸地域の独自性と共通性を見出し、考える。</p>			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	4月	○世界史の中の人物 (近現代)	○世界・日本の人物、特に女性を取り上げ、その時代での生き方、社会・文化などを考えさせる	修学旅行前に学習
	6月	△東・南アジアの自然の文化 △沖縄から見えてくること △チベットから見えてくること △フィリピンから見えてくること	△世界の州単位ごとの地域に区切ることで、その地域で固有の問題・特色がクローズアップでき、より今の日本の地域社会との違い共通性を浮かび上がらせることによって、考えさせる。	
	10月	○世界史の中の人物 (近現代) △長崎と世界 △負の遺産を持つ日本		
	11月	△西アジアの自然・文化 △ヨーロッパの自然・文化		
	12月	○日本史の中の人物 (近現代) △固有のクリスマス文化を持つ地域		
	1月	○日本史の中の女性(近現代) △固有のクリスマス文化を持つ地域		
	2月	△オセアニアの自然・文化		
学習の留意点・評価など	評価は学期末試験 (年3回)・レポート・平常点による。			
備考				

教科名	地理歴史科	科目名	World Studies	
対象学年	高校2年	コース・選択	コース I (選択)	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	なし	
使用教材	各種ワークシート/視聴覚教材/ワークショップ教材			
基本的な問いと学習のねらい	<p>探究する基本的な問い  「ある国の文化の形成に、異民族の文化がどのような影響を与えているのか？」  「ある国の文化の形成には、どのような歴史的背景があるのか？」  「英語はどのように形成されたのか、その形成にはどのような歴史的背景があるのか？」</p> <p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ローカルからグローバルに及ぶ各レベルのコミュニティーの一員として多様性を肯定的にとらえ、よりよいコミュニティーの形成に貢献できる人材を育成する。</li> <li>あるコミュニティーの文化は、民族が接触を繰り返すことによって形成されてきたことに気づかせる。</li> <li>英語をツールとして使う態度を養うと同時に、英語を単なるツールではなく多様な人々が共存する中で歴史的に形成される文化であるという意識を持たせる。</li> <li>簡単な英語でも人に伝えることができることを体験させ、人前で英語を話すことへの抵抗感をなくす。</li> <li>プレゼンテーションを身近なものとし、探究したことを他者と共有する積極的な態度を養う。</li> </ol>			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学習内容	英語活動
	1学期	オリエンテーション 世界地理	1年間の授業内容、受講にあたって守るべきルールを説明する。 ゲームを通して、世界地図に親しむ。	
		4月	世界地理	世界の地域区分を学ぶ。
	世界地理		風景写真を見ながら、主な地形と地名を学ぶ。各国の写真と説明文のカードを合わせる。	英文の説明文を、これまでに学習した地理用語を活用し読み取る。
	5月	世界地理	写真と説明文のワークシートで、各国の特色を学ぶ。	英語でクイズを作る際に必要な表現を学び、クイズをつくる。
			世界地理クイズをつくる。	
	6月 7月	世界の多様なくらし	写真の国や地域を根拠を添えて推測する。	根拠を添えて伝える英語表現を学ぶ。
			各写真から読み取れる情報を整理する。	写真の地域や国を推測し、根拠を添えて英語で発表する。
				Paragraph Writing 好きな国/興味のある国を1つ選び、なぜ好きなのか理由を添えて説明する英文を書き、発表する。

学期・月等	単元	学習内容	英語活動	
	SDGs	Sustainable Development Goalsが設定された背景やその内容を学ぶ。	Presentation Skills SDGsに関する課題について調べ、英語で発表することを通してプレゼンテーションスキルを学ぶ。	
2学期 9月	多民族社会 英国	イーストロンドンの移民社会の写真から、イギリスが典型的な多文化社会であることに気づく。 What is UK? イギリスの概要を把握する。人口、首都、通貨、首相、地形等	人口、首都、通貨、首相等の英単語を学ぶ。	
	英国の食文化の多様性と歴史的背景	代表的なイギリス料理を知る。イギリスの食文化として知られる紅茶／アフタヌーンティーから、国際社会が歴史的にどのようにつながり、影響し合ってきたかを考える。 ・いつからイギリス人は紅茶を飲むようになったのか？ ・英国と紅茶が結びつくのは、どのような時代背景なのか？ ・植民地にどのような影響を与えたのか？	英文レシピを読むとる。 紅茶のパッケージにある会社の創設に関する説明文を読み取る。 英国の紅茶の歴史に関する英文を読み取る。 紅茶の歴史に関わった人物になりきって、何をしたのか、自分の果たした役割についてどう思っているのかなどを英語で表現する。	
	10月			
	11月 12月	多民族社会 英国の民族	英国には古代から様々な民族が流入し、その社会が形成されてきたことを確認する。特に旧植民地からの移民の流入に注目する。	英文資料を読み取る。
		ゲストスピーカー	関西学院大学学生から、海外ボランティア等の経験談を聞く。	事前学習として、学生の派遣国に関する英文資料を読み取る。
	3学期 1月		英語がフランス語を取り入れるに至った歴史的背景を考える。年表、地図、系図資料を読み取り、ノルマン朝が征服王朝であることを理解する。	英語の年表を読み取る。
2月	英語の多様性と歴史的背景	紋章の変遷から、英仏関係史を学ぶ。  英語に見られるフランス語以外の要素について学ぶなかで、イギリスへの諸民族の流入と中世までの英国史を概観する。	征服者ノルマン人と先住農民の台詞を考え、演じる。  英文教材を使って英語の中の他言語について学ぶ。	
	異文化交流プロジェクト	「多文化共生」をトピックとして金城学院大学留学生とワークショップを行う。		
学習の留意点・評価など	授業は参加型で行い、学習課題に対して積極的に学ぶ態度を育成するよう心掛ける。個人学習と協同学習を組み合わせることで、思考することを促し、知識の定着を図る。			



教科名	地理歴史科	科目名	日本史 A	
対象学年	高校3年	コース・選択	必修	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	日本史A (第一学習社)	
使用教材	日本史A (第一学習社)			
学習のねらい	日本が国際社会の中で、どのようにして近代国家を建設し、戦争の悲劇を乗り越え平和国家を築いてきたかを、諸資料に基づき考察する。考察を通して、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学習内容	留意点
	4月	第2節 明治維新 ①黒船がやってきた ②志士たちの時代 ③手を結ぶ薩長 ④近代との出会い ⑤江戸が東京になった	・開国に至る経緯と、幕府の対応について理解する。 ・開国以後の情勢について、幕府が崩壊した一連の流れを理解する。 ・幕末から明治初期の使節・留学生の派遣、外国人の招聘により欧米文化が導入されたことを理解する。	開国に至る要因と開国の影響をコンセプトマップで表現する。
	5月	第3節 近代国家の確立 ①天皇の軍隊がつけられた ②スローガンは「富国強兵」 ③欧米文化がはいてきた ④日本の国境が定まった ⑤爆発する農民や士族の不満	・明治政府の初期の諸政策によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。 ・明治政府の強硬な近代化政策に、農民や士族が抵抗を示したことを理解する。	風刺画を読み取る。
	6月	⑥国会開設が決まった ⑦地主制が進行した ⑧立憲政治がはじまった ⑨国会がはじめて開かれた 第4節 対外関係の変化 ①欧米と肩を並べる国をめざして ②清国との対立が深まった ③ロシアとの戦争がおこった ④アジアへの侵略がはじまる	・明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し、自由民権運動がおこり、国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る、一連の動きを理解する。 ・初期の外交政策は、欧米に対しては不平等条約の改正、一方、アジア諸国に対しては強硬な態度で臨んだことを理解する。 ・明治前半では、条約改正が最大の外交課題であり、この克服においては、国際情勢と国内情勢の推移が密接に関係し、進められたことを理解する。 ・日清・日露戦争の経緯と結果、また、この戦争を経て、アジアに対して日本が勢力の拡張をおこなったことを理解する。	風刺画を読み取る。
	7月	第5節 政党政治の展開 ①藩閥と政党が接近した ②民衆が政治を動かした ③「平民宰相」が登場した	・明治後半から大正期において、国内的に政党政治が展開したことを理解する。	

	学期・月等	単元	学習内容	留意点
学習内容 と流れ	9月	第2章 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢 第1節 近代産業の発展と社会運動の展開 ①日本の生糸が世界を制する ②欧米の資本主義に仲間入りした ③貧富の差が広がった ④抑圧からの解放をもとめて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日清・日露戦争の過程で、日本に産業革命がおこり、資本主義が確立したことを理解する。</li> <li>・資本主義の発展によって産業構造が変化し、これにともない、都市における貧民問題や労働問題など、さまざまな社会問題が発生したことを理解する。</li> <li>・社会運動の広がりとともに、大正期には女性解放運動が展開したことを理解する。</li> </ul>	世界史で学習した帝国主義の枠組みの中でとらえる。
	10月	第2節 国民生活の変化と文化 ①明治の国家主義と大正のデモクラシー ②教育が進化した ③多彩な学問と近代文学が発展した ④新しい文化とモダンな都市が生まれた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家主義思想や大正デモクラシーの風潮に着目して、明治期と大正期の思想の違いについて理解する。</li> <li>・国民統制において、教育政策や国家主義的思想が果たした役割について理解する。</li> <li>・明治～昭和初期の文化的業績について理解する。</li> <li>・明治～昭和初期の文化の背景としての都市生活の発展について理解する。</li> </ul>	
	11月	第3節 第一次世界大戦と日本 ①最初の世界大戦に日本も参戦した ②朝鮮・中国の民衆が立ち上がった ③日本は欧米に歩調をあわせた ④成金の時代がやってきた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦に日本が参戦した意図、また第一次世界大戦を通しての日本の外交方針について理解する。</li> <li>・第一次世界大戦後、国際的に民族運動が高まったことについて理解する。</li> <li>・第一次世界大戦が日本に与えた経済的な影響について理解する。</li> </ul>	なぜ日本は二つの世界大戦に参加したのかを考える。
	12月	第4節 第二次世界大戦と日本 ①恐慌の嵐が吹きあれる ②日本の外交が行きづまる ③軍部の暴走がはじまった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内的な第一次世界大戦以後の慢性的な不況と、国際的な世界恐慌による資本主義諸国の経済危機について把握し、日本および各国が、このような状況をどのように克服していったのかを理解する。</li> <li>・軍部の台頭の過程と、これにともなう政治的な状況の変化について理解する。</li> </ul>	
	1月	④中国との長い戦いがはじまった ⑤戦争の影が文化におよぶ ⑥すべてが戦争に協力させられた ⑦アメリカとの戦争がはじまった ⑧戦争が拡大する ⑨アジア・太平洋の諸民族にかかわった ⑩生活も戦争に染まった ⑪戦争が終わった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国・アメリカを中心とした国際関係の変化にも着目しながら、太平洋戦争に至る過程を理解する。</li> <li>・太平洋戦争に至る過程のなかで、国民生活はどのように変化したのかを理解する。</li> <li>・日本がアジア諸国に対して与えた影響について理解する。</li> </ul>	
学習の留意点・評価など	写真や歴史的絵画使用等の非連続型テキストを読み取る活動を取り入れ、考える歴史の学習へと導く。また、読み取ったことは、できるだけ文章で表現する機会を設ける。非連続型テキストは、プロジェクターを利用し、スクリーンに投影することで観察しやすくする。			

教科名	地歴公民	科目名	日本史B	
対象学年	高校3年	コース・選択	コースⅡ（社会教科内選択）	
単位数	4単位	教科書 (出版社)	詳説日本史B（山川出版社）	
使用教材	各種プリント／詳説日本史整理ノート（山川出版社）／新詳日本史（浜島書店）／日本史用語集（山川出版社）／日本史B一問一答（東進ブックス）			
学習のねらい	近世から現代にかけての日本史の流れを大きく理解する。特に、近現代史では日本と世界の関係を学ぶことによって、現代起こっている諸問題を理解するための能力を養う。			
学習内容 容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	1学期 4月	戦国時代 織豊政権と江戸幕府の成立 (前期まで)	昨年度学習した戦国時代前夜までの歴史を振り返り、織田信長・豊臣秀吉の登場から江戸幕府成立期（武断政治）までの内容を把握させる。	武家政権の内容及び鎖国に至る経緯を世界との関わりを考慮しながら理解させる。
	5月 6月 7月	江戸時代中期 江戸時代後期① 江戸時代後期② 第二次世界大戦	文治政治期、改革期の内容を把握させる。 第二次世界大戦に至る過程、及び戦時中の日本の状況を把握させる。	成熟した政権の問題点に留意する。 世界史の動きにも留意する。
	2学期 9月 10月	戦後昭和史～平成不況まで	アメリカ占領下の日本及び民主改革、55年体制から平成不況までの流れを把握させる。	戦後改革が現在の日本にどのような影響を与えているかも留意する。
	11月	テーマ史	「経済史」「外交史」「文化史」等を通史で復習する。	入試問題は、テーマ史を扱うことが多いため、テーマ別の流れを把握できるように留意する。
	12月	共通テスト演習	共通テスト対策	予想問題を解き、共通テスト前の総仕上げをする。
学習の留意点・評価など	通史としての日本の歴史と、それにもなう歴史的な洞察力を身につけ、社会全体の在り方を考える。その際、単なる用語の暗記に終始しないよう、各時代の流れを理解することを意識し、それぞれの出来事が発生した時代背景や他の事象との因果関係にも着目させる。また、科目や単元（時代）ごとの理解を深め、思考力を養うための探究的な課題を随時取り入れる。授業内容を補完するものとして、時代劇や歴史小説・漫画など、生徒が日本史に興味をもてるようなものについても、適宜紹介していきたい。			
備考	受験生としての学習への取り組みを、個々の生徒が持てるように普段からの授業には気を配りたい。			

教科名	地理歴史科	科目名	世界史 B	
対象学年	高校3年	コース・選択	コースⅡ（教科内選択）	
単位数	4単位	教科書 (出版社)	詳説世界史B（山川出版社）	
使用教材	最新世界史図説タペストリー（帝国書院） 詳説世界史整理ノート（山川出版社） 世界史B一問一答完全網羅版（Gakken）			
学習の ねらい	<p>グローバル化が進む現代社会において、近代以降の歴史が大きく影響していることを理解する。その上で、「歴史」が様々な社会的背景や権力関係の中で生まれたこと、あるいはどの立ち位置で「歴史」は語られるのかといった「歴史」への複数のまなざしを考える力を養う。知識としての歴史だけでなく、思考としての歴史を理解することで、自文化を相対化する視点をみにつける。</p> <p>また、「世界史」や「日本史」という大きな枠組みの歴史だけでなく、現在私たちが生きていることも歴史の一部と考えることで、「歴史」をより日常的なものとして考える視点を養う。</p>			
学習 内容 と 流れ	学期・ 月等	単元	ねらい	留意点
	4月	近世・近代ヨーロッパ世界の形成・発展 近代国民国家の発展	ヨーロッパにおける近世の国家、そして、環大西洋革命を経て、近代の国民国家がどのように成立したかを考える。国民国家というのが自明なものではなく、「創られるもの」という視点に立ち理解する。	教科書において、なぜこの時代から「国家の歴史」が全面的にでているのかを考える。
	5月 6月	アジア諸地域の動揺 帝国主義とアジアの民族運動	ヨーロッパの進出により、アジア地域での政治の変化、植民地化に伴う民族主義の芽生えを理解する。また、アジアのナショナリズムの高まりが、ヨーロッパとは異なる展開をみせることを理解する。 列強による帝国主義の中で、植民地獲得が経済的にどのような意味があるのか、また植民地化を可能にしたヨーロッパの思想の背景には何があるのかを理解する。	現在、問題になっている中東の問題、またグローバルな視点から自由貿易協定などの問題と政治的、経済的に関連付けて理解する。
	7月 2学期 9月	二つの世界大戦	帝国主義の覇権争い、バルカン半島における民族問題からはじまった一次世界大戦、世界恐慌に対応するためのブロック経済という経済戦略から起こった第二次世界大戦を学習する。二つの戦争と戦間期における歴史を学習することで、政治、経済、民族、国家というワードが複雑に絡み合いながら戦争に至った理由を探る。また、一次大戦後、ウィルソンが提唱した民族自決の権利が二次世界大戦にもたらした影響や、二次大戦後の国際連合の枠組みなど現在に繋がる論理を理解する。	様々な映像資料、当時の資料、戦後書かれた文字資料を参考にする。

	学期・月等	単元	ねらい	留意点
学習内容と流れ	10月 11月	冷戦と第三世界の自立	戦後、国際社会の中心となったアメリカとソ連の冷戦、アジア・アフリカの自立について学習する。東西陣営を支えた経済的論理と軍備拡大や、一方でアジア・アフリカの自立を促す様々な運動を理解する。また、いわゆる9.11以降、様々な意味で注目される中東地域であるイスラエルとアラブ諸国の軋轢の歴史的背景やそこに絡む石油などの経済的理由から現代の問題についても考える。	
	12月	現代の世界	ソ連解体、東欧社会主義圏の民主化運動から国家の誕生、一方でヨーロッパ連合の登場による新しい共同体の成立を学習する。アフリカにおいては、独立後むしろ活発化した紛争の背景を理解する。現代社会に直結する問題を歴史的な意義を踏まえて理解する。	現在の私たちが歩んでいる歴史と、「世界史」を考える。
学習の留意点・評価など	近代以降のヨーロッパ中心の歴史観を相対化する視点を養うことを目的とする。また、モノや資料を読み解く力を身につけるとともに、それらの資料がどのような文脈において語られているかを考える。世界史が「歴史」の一分野であることを認識し、様々な視点から「歴史」を考えるヒントを示す。 評価方法としては、歴史用語や知識の暗記力ではなく、それらを論理的に組み合わせ、思考し、文章で表現する力を重視する。			
備考				

教科名	地理歴史科	科目名	歴史と地理	
対象学年	高校3年	コース・選択	コース I (A選1)	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	——	
使用教材	プリント・新聞・地図・視聴覚教材など			
学習のねらい	<p>○歴史分野と△地理分野の2人の教師がオムニバス方式で担当し、2学年次から継続して、現代の社会のあるべき姿を考えさせていく。</p> <p>○世界や日本の歴史の流れに大きな影響を与えた人物のうち、可能なかぎり女性に注目し、その時代背景・女性観・文化などを考察する。</p> <p>△自然環境と社会環境を合わせた地理的環境を通して世界諸地域の独自性と共通性を見出し、考える。</p>			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	4月	<p>○世界史の中の人物（近現代）</p> <p>△アングロ・アメリカの自然・文化</p> <p>△ラテン・アメリカの自然と文化</p> <p>△コスタリカの平和憲法</p> <p>△ブラジル混血社会・文化</p>	<p>○世界・日本の人物、特に女性を取り上げ、その時代での生き方、社会・文化などを考えさせる</p> <p>△世界の州単位ごとの地域に区切ることで、その地域で固有の問題・特色がクローズアップでき、より今の日本の地域社会との違い共通性を浮かび上がらすことにより、考えさせたい。</p>	<p>コスタリカとブラジルを特に取り上げる。</p>
	5月	○世界史の中の人物（近現代）		
	6月	<p>○日本史の中の人物（近現代）</p> <p>△アフリカの自然・文化</p> <p>△虹の国・社会</p>		<p>南アフリカ共和国を特に取り上げる。</p>
	7月	<p>○日本史の中の人物（近現代）</p> <p>△日本国内の国際化</p>		<p>在日外国人、特に日系人を取り上げる。</p>
備考	評価は中間試験・1学期期末試験（年2回）・レポート・平常点による。			



教科名	地理歴史科		科目名	World Studies
対象学年	高校3年		コース・選択	コースⅠⅡ（選択）
単位数	2単位		教科書 (出版社)	なし
使用教材	各種ワークシート/視聴覚教材/ワークショップ教材			
基本的な 問いと 学習の ねらい	1 学期	<p>基本的な問い アメリカ合衆国は、多文化共生を実現するためにどのような歴史をたどってきたのか。そして、現在、どのような課題があるのか。</p> <p>学習目標 移民の国のアメリカ合衆国のあゆみを知ることで、多文化社会の利点を課題について考える。どうすれば多文化共生社会が実現するかを考える。 英語で自分の考えや意見を伝えることができる。</p>		
	10 月以 降	<p>大学入試問題の英文を通して、様々なテーマに関連する語彙を習得し、4技能を向上させる。精読というよりは、英文全体のテーマを掴み、著者の立場、意見について把握する。また、自分の意見を仲間と共有し、表現力を養う。</p>		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学 習 内 容	英 語 活 動
	1 学期 4 月	多文化社会 アメリカ合衆国 地理	北アメリカの地理的基礎知識を習得する。 アメリカ合衆国の政治組織を学ぶ。	
		多文化社会 アメリカ合衆国 地理	アメリカのいくつかの州の歴史を学ぶ。	Explore New York ニューヨークの歴史・文化・産業を英語で学ぶ。 ニューヨーク出身の先生にニューヨークを紹介してもらい、質疑応答をする。 英語資料を使って、アメリカのいくつかの州の歴史を学ぶ。
	5 月	政治制度 多文化社会 アメリカ合衆国 建国と移民の歴史	アメリカの政府組織や政党を学ぶ。 大統領選挙の仕組みを学ぶ。 植民地時代から独立までの主な歴史事項をおさえる。 ヨーロッパ系移民の流入の歴史に関する要点をおさえる。 ネイティブアメリカンの歴史について学ぶ。	英文資料を使って、アメリカ合衆国の政治組織について学ぶ。
6 月	多文化社会 アメリカ合衆国 公民権運動	大西洋三角貿易と奴隷解放までの歴史を学ぶ。 「分離すれども平等」の原則が確立されたことを知る。 ローザ・パークス事件から公民権法成立までの主な出来事を学ぶ。 アファーマティブアクションについて学ぶ。	Little Rock事件の写真を読み取り、英語でキャプションや台詞を考える。 Role Play "Eye witness"を行う。	

	学期・月等	単元	学習内容	英語活動
学習内容と流れ	7月 9月	多文化社会 アメリカ合衆国		英語劇を行う。移民の物語を英語で演じる。
		金城学院大学に内部推薦で進学する生徒は、金城学院大学の講義に参加（10月以降）		
	10月	社会に関する例文に触れる	社会問題についての英文を読み、理解を深める。日本の社会が抱えている問題を自ら選び、その問題を改善するためにどのようにしたらよいのか意見を共有し、意見をまとめ発表する。	
	11月	科学に関する例文に触れる	科学技術についての英文を読み、知識を深める。宇宙開発について、賛成、反対の立場を明らかにして、意見をまとめる。	
	12月	総合演習	実戦問題に挑戦する。	
学習の留意点・評価など	授業は参加型で行い、学習課題に対して積極的に学ぶ態度を育成するよう心掛ける。個人学習と協同学習を組み合わせることで、思考することを促し、知識の定着を図る。社会や文化の多様性に気づかせ、違いから学ぶことを心掛ける。			

教科名	地理歴史科	科目名	世界史演習	
対象学年	高校3年	コース・選択	コースⅡ (B3)	
単位数	2単位	教科書 (出版社)	詳説世界史B (山川出版社)	
使用教材	最新世界史図説タペストリー (帝国書院) 実力をつける世界史100題 (Z会出版) 大学入学共通テスト世界史トレーニング問題集 (山川出版社)			
学習の ねらい	本講では、大学入学共通テスト、および国公立大学2次試験、私立大学一般入学試験を視野に入れ、古代から現代までの通史、地域史、テーマ史・文化史など、主に問題演習を通して、様々な角度から「世界史」を学ぶ。また「世界史B」の授業で学んだことを問題として復習することで、知識を定着させる。			
学習 内容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	1学期 4月	古代世界	オリエントから、ギリシア・ローマの歴史を学ぶ。	まずは直近の「世界史B」の授業で学んだ箇所の問題を解いて復習する。さらに問題演習を行いながら、基本的には通史を復習し、さらにテーマや地域の関係の歴史を学ぶことで、様々な歴史的知識をつなぎ合わせる。
	5月	東アジア・中央アジア史	中国史、北方民族の歴史を学ぶ。中国で発生した各王朝からみた北方民族、北方民族からみた中国史という双方からこの地域の歴史を捉える。	
	6月	西アジア・東南アジア・南アジア史	イスラーム世界の拡大、インドを中心とした南アジア、東南アジア諸国と地域のネットワークに関して学ぶ。	
	7月	ヨーロッパ史	中世～近世ヨーロッパの各地域、各国の歴史について学ぶ。	
	2学期 9月	近代ヨーロッパ史	主権国家、市民革命、帝国主義のヨーロッパを学ぶ。	
	10月	アジア・アフリカの変容	帝国主義時代のアジア・アフリカ地域の変容について学ぶ。	
	11月	二つの世界大戦、冷戦後の世界	世界大戦と冷戦後の世界を学ぶ。	
	12月	問題演習	センター試験、私立大学一般入試試験を踏まえ、世界史全般について、問題演習を行う。	
学習の 留意点・ 評価など	通史的な理解力だけでなく、諸地域の「関係」に着目することで、その「関係の歴史」から異なる地域、国の歴史を理解する。問題演習を主に行うが、問題作成者の意図や、背景にまで踏み込める問題を解くことで、「世界史」への受験を通したまなざしにも注目する。			
備 考				

教科名	地理歴史科	科目名	日本史演習		
対象学年	高校3年	コース・選択	コースⅡ (B3)		
単位数	2単位	教科書 (出版社)	詳説日本史B (山川出版社)		
使用教材	詳説日本史B (山川出版社)、実力をつける日本史100題 (Z会)、 大学入試共通テスト日本史トレーニング問題集				
学習の ねらい	受験対象者として、日本史の問題を演習し、基礎力から応用力までの実践力を養う。				
学習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点	
	1 学期				
	4 月	原始時代の演習	基礎的な問題と応用問題を交互に扱い、難易度を意識させた取り組みを行う。	入試本番までの1年の流れを説明し、計画的な計画スタイルの確立を意識づける。	
	5 月	古代史の演習			
	6 月	中世史の演習 (1)			
	(期末)				受験生の心得、マークシート記入の注意点、記述・論述問題の対策等にも言及。
	7 月	中世史の演習 (2)			史料や図説の活用
	2 学期				
	9 月	近世史の演習			
	10 月	近代史の演習 (1)			
11 月	近代史の演習 (2)	基礎力の徹底に専念し、実力への不安を考慮する。			
(期末)					
12 月	現代史の演習				
学習の 留意点・ 評価など	問題集の演習だけにとらわれず、史料や図説の活用法や、解答・解説から導き出される歴史的事実と考察力の育成にも重点を置く。 2学期からは、志望校と自己の実力の観点から、不安を持つ生徒も現れる。基礎の徹底を促し、かつ授業内においては、日本史を受験しない生徒の弛緩した空気を充満させないよう、特に留意する。 12月からは、生徒の受験へのプレッシャーや緊張感も考慮して、質問や相談にも対応する。				
備 考	受験生としての学習への心構えや取り組みを、個々の生徒が持てるように、普段からの授業には気を配りたい。				

教科名	地理歴史科	科目名	地理演習	
対象学年	高校3年	コース・選択	コースⅢ (C2)	
単位数	2単位	教科書(出版社)	——	
使用教材	ベストセレクション大学入学共通テスト2022地理B 重要問題集 (実教出版) 新詳地理資料COMPLETE (帝国書院) 地理データファイル (帝国書院)			
学習のねらい	受験者を対象とし、基礎事項を確認して入試問題等を演習、実力を養う。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	4 ～ 7 月	地誌分野の演習 (オーストラリア・アングロアメリカ・ラテンアメリカ・ヨーロッパ)	他地域との差異を明らかにして、それぞれの地域の自然・文化・産業の特徴を把握する。	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。日本をはじめとした他地域との相違点と共通点を整理する。
	9 ～ 12 月	系統地理分野の演習  地形図分野の演習  問題演習	既習事項を復習しながら、問題演習を行う。問い立てに対して、解答(結論)に至る過程を重要視し、論理的思考を育み、実践力を身につける。	各種統計資料・図表を読み取り、社会的事象の因果関係を考察し、問いに対する解答を模索する。その際に、既習した知識を統合しながら、問題の意図を読み取り、論理的思考を繰り返すことで、解答を導いていく。
学習の留意点・評価など	映像資料を利用し、世界の文化や暮らしの様子を具体的にイメージしやすいように工夫する。各国の文化や社会の特色を考えさせる際に、思考ツールを利用させることで比較・分析を容易にする。問題演習を通じて、論理的思考力を育成し、実践力を育む。			
備考				

教科名	公民科		科目名	公共
対象学年	高校1年		コース・選択	必修
単位数	2単位		教科書 (出版社)	公共(実教出版)
使用教材	・最新図説公共(浜島書店)			
学習のねらい	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学習内容	留意点
	4月	1 社会を作る私たち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期とは</li> <li>・自己形成の課題</li> <li>・職業生活と社会参加</li> <li>・伝統・文化と私たち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期の意義と特徴について理解させる。</li> <li>・葛藤や欲求不満とその対処法、パーソナリティの理論について理解させる。</li> <li>・職業のさまざまな意義と、職業選択と自己の生き方を結びつけて考えることの重要性について理解させる。</li> <li>・伝統的な倫理観が日本人の生き方や考え方にも影響を与えていることを具体的な事例を通じて考えさせる。</li> </ul>
	5月	2 人間としてよく生きる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古代ギリシアの人間観</li> <li>・科学と人間</li> <li>・自由の実現</li> <li>・社会を作る人間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラトンとアリストテレスが幸福に生きるために理性を重視したことを理解させる。</li> <li>・ベーコンとデカルトの考え方が近代科学の発展に与えた影響に着目させる。</li> <li>・自由に対するカントの考え方とヘーゲルの考え方の違いを理解させる。</li> <li>・サルトルが考えた自由が責任をとまなうものであることに着目させる。</li> </ul>
		3 他者とともに生きる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間と幸福</li> <li>・公正な社会をめざして</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・功利主義が行為の正しさを幸福という結果の善さに求めたことに着目させる。</li> <li>・ロールズとセンの考え方の違いを理解させる。</li> </ul>
	6月	4 民主社会の倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の尊厳と平等</li> <li>・自由・権利と責任・義務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の尊厳や平等と個人の尊重との関連に着目させる。</li> <li>・自由・権利と責任・義務がどのような関係にあるのかを理解させる。</li> </ul>
	5 民主国家における基本原理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民主政治の成立</li> <li>・民主政治の基本原則</li> <li>・民主政治のしくみと課題</li> <li>・世界の主な政治制度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民主政治の歴史的な展開を理解させる。</li> <li>・法の支配の特徴に着目させる。</li> <li>・民主政治が課題をもつ政治制度でもあることに着目させる。</li> <li>・各政治制度の特徴を理解させる。</li> </ul>	



	学期・月等	単元	学習内容	留意点
学習内容と流れ		1 現代の経済社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済主体と経済活動の意義</li> <li>・経済社会の変容</li> <li>・市場のしくみ</li> <li>・市場の失敗</li> <li>・現代の企業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家の経済への介入や世界経済との一体化など、20世紀以降進展した資本主義経済の変容を理解させる。</li> <li>・財やサービスの価格と生産量の関わりについて具体例を示し理解させる。</li> <li>・価格の変化が消費者と企業の行動にどのような影響を及ぼしているか理解させる。</li> <li>・企業には、活発な経済活動と個人の尊重を両立させることが必要であることを理解させる。</li> </ul>
	7月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民所得</li> <li>・経済成長と国民の福祉</li> <li>・金融の役割</li> <li>・日本銀行の役割</li> <li>・財政の役割と租税</li> <li>・日本の財政の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な経済指標について、その特徴を理解させる。</li> <li>・景気変動のそれぞれの局面とインフレ・デフレとの関係性について理解させる。</li> <li>・金融市場の仕組みと金利の動き、銀行、証券会社、保険会社など各種金融機関の役割について理解させる。</li> <li>・中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解させる。</li> <li>・財政のもつ3つの役割について理解させる。</li> <li>・租税を中心とした公的負担の意義と必要性について理解させる。</li> </ul>
	9月	2 日本経済の特質と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後日本経済の成長と課題</li> <li>・転機に立つ日本経済</li> <li>・経済社会の変化と中小企業</li> <li>・農業と食料問題</li> <li>・消費者問題</li> <li>・公害の防止と環境保全</li> <li>・労働問題と労働者の権利</li> <li>・こんにちの労働問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後復興、高度経済成長、バブル経済の発生と崩壊などの背景や要因について理解させる。</li> <li>・高度経済成長から取り残された中小企業について、持続可能性が問われている現状を理解させる。</li> <li>・産業構造の高度化や農政の変化に振り回されてきた農業の現状を理解させる。</li> <li>・消費者問題が続くなか、消費者行政が保護から自立へと変化していることを理解させる。</li> <li>・環境保護と経済成長は両立するべき概念であることを理解させる。</li> <li>・労働契約の特性、労働法による労働者の権利保護の状況について理解させる。</li> </ul>
	10月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障の役割</li> <li>・社会保障制度の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の雇用形態の崩壊や雇用の流動性が強まるなかで、労働のあり方が問い直されていることを理解させる。</li> <li>・社会保障がなぜ必要とされてきたのかを、社会保障の歴史をたどることで理解させる。</li> <li>・これからの日本の社会保障制度について、受給と負担のバランスが議論の中心になっていることを理解させる。</li> </ul>
		1 国際政治の動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会と国際法</li> <li>・国際連合と国際協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際法が戦争の違法化だけではなく、人権擁護環境保護など豊富な内容になっていることを理解させる。</li> <li>・国際連合が世界の平和と安全の維持のために多くの専門機関や関連機関と連携していることを理解させる。</li> </ul>

	学期・月等	単元	学習内容	留意点
学習内容と流れ	11月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こんにちの国際政治</li> <li>・ 人種・民族問題</li> <li>・ 軍拡競争から軍縮へ</li> <li>・ 国際平和と日本の役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冷戦期以降の国際政治情勢について、対立する主体に注目して理解させる。</li> <li>・ 人種・民族問題は過去のものではなく、現実の課題として残っていることを具体的な事例から理解させる。</li> <li>・ 冷戦期の軍拡競争以降、世界的な運動によって軍縮が進んでいることを理解させる。</li> <li>・ ODAやPKOだけではなく、人間の安全保障の観点からも国際貢献が求められていることを理解させる。</li> </ul>
		2 国際経済の動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貿易と国際収支</li> <li>・ 外国為替市場のしくみ</li> <li>・ 第二次世界大戦後の国際経済</li> <li>・ 地域的経済統合の進展</li> <li>・ 国際経済のつながりと課題</li> <li>・ 発展途上国の諸課題と日本の役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際収支表によって、日本の貿易・投資がどのように変化しているかを理解させる。</li> <li>・ 円高と円安が日本経済に及ぼす影響について、具体的な貿易を想定して理解させる。</li> <li>・ 通貨や貿易体制の枠組みを規定したIMF・GATT体制と、その変容の歴史を理解する。</li> <li>・ 世界各地で経済統合と自由貿易が進展している現状を理解させる。</li> <li>・ 経済のグローバル化がもたらしたメリットとデメリットを、それぞれ理解させる。</li> <li>・ 貧困や格差が解消されていない現状と、その解決が国際的な目標となっていることを理解させる。</li> </ul>
	12月			
	1月	2 日本国憲法の基本的性格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本国憲法の成立</li> <li>・ 日本国憲法の基本的性格</li> <li>・ 自由に生きる権利</li> <li>・ 平等に生きる権利</li> <li>・ 社会権と参政権・請求権</li> <li>・ 新しい人権</li> <li>・ 人権保障の広がりとは公共の福祉</li> <li>・ 平和主義とわが国の安全</li> <li>・ こんにちの防衛問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本国憲法の基本原理が国民主権、基本的人権の尊重、平和主義であることを理解させる。</li> <li>・ 憲法で保障されているさまざまな自由権について、具体的な判例を通じて理解させる。</li> <li>・ 現代においても、さまざまな差別が残っていることを具体的な事例を通じて理解させる。</li> <li>・ 社会権の保障と現実の政策をめぐる課題について着目させる。</li> <li>・ 社会が変化するなかで重視されるようになったさまざまな権利の内容を理解させる。</li> <li>・ 公共の福祉が、個人の権利を等しく尊重し、適正な調整をはかるための原理であることに着目させる。</li> <li>・ 日本国憲法の平和主義の内容と日米安保体制が生まれた背景について理解させる。</li> <li>・ 世界情勢の変化と安全保障体制の変化の関連について理解させる。</li> </ul>

	学期・月等	単元	学習内容	留意点
学習内容と流れ	2月	2 日本政治機構と政治参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治機構と国会</li> <li>・行政権と行政機能の拡大</li> <li>・公正な裁判の保障</li> <li>・地方自治と住民福祉</li> <li>・政党政治</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の三権分立がどのようになっているかを視覚的に理解させる。</li> <li>・行政権の拡大と官僚政治の課題，その転換に向けたさまざまな改革について理解させる。</li> <li>・司法権の独立や裁判のしくみ，各裁判所の役割について理解させる。</li> <li>・地方自治の本旨である，団体自治と住民自治について理解させる。</li> <li>・政党政治や日本の政党政治の課題について理解させる。</li> </ul>
	3月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙制度</li> <li>・世論と政治参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の選挙制度の種類とそれぞれの特徴，議員定数の不均衡などの課題について理解させる。</li> <li>・マス・メディアや市民運動が世論形成と政治にもたらす影響について理解させる。</li> </ul>
学習の留意点・評価など			<ul style="list-style-type: none"> <li>・考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し，諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができたか。</li> <li>・現代社会の諸課題の解決に向けて，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うことができたか。</li> <li>・よりよい社会の実現を視野に，現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めることができたか。</li> </ul>	
備考				

教科名	公民科	科目名	社会問題
対象学年	高校2年	コース・選択	コースI（2選1）
単位数	2単位	教科書 (出版社)	—
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事</li> <li>・自作プリント</li> <li>・その他</li> </ul>		
学習のねらい	<p>年間テーマ「ともに生きる」に基づき、現代のさまざまな「社会問題」について理解するとともに、新聞記事の収集などをおして「社会問題」についてより深く考察しながら、「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究する。</p>		
学習内容と流れ	学期・月等	学習内容	留意点
	年間	「ともに生きる」を年間テーマとして、新聞記事の収集やフィールドワークなどをおして、よりよい社会の在り方について探究する。	・日頃から新聞に慣れ親しみながら、社会への興味・関心を高める。
	4月 5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新聞の読み方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事の構成・概略など</li> <li>・新聞記事の収集方法など</li> </ul> </li> <li>○テーマ1「環境」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー</li> <li>・課題の設定</li> <li>・情報の収集</li> <li>・整理・分析</li> <li>・まとめ・表現</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の読み方について、新聞の構成や記事の収集方法について理解するとともに、新聞から情報を収集する場合には、できる限り複数の新聞社の記事を用いる必要があることなどに留意する。</li> <li>・「環境」の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。</li> </ul>
	6月 7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テーマ2「生命」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー</li> <li>・課題の設定</li> <li>・情報の収集</li> <li>・整理・分析</li> <li>・まとめ・表現</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生命」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。</li> </ul>
	8月	○夏休みを利用して新聞切り抜きレポートの作成	・新聞切り抜きのレポートを作成して、「社会問題」の現状と課題について、より深く考察する。
	9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新聞切り抜きレポートの発表</li> <li>○テーマ3「平和」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー</li> <li>・課題の設定</li> <li>・情報の収集</li> <li>・整理・分析</li> <li>・まとめ・表現</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要点をまとめて、誰にでもわかるように発表する。</li> <li>・「平和」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。</li> </ul>

	学期・月等	学 習 内 容	留 意 点
学 習 内 容 と 流 れ	11月 12月	○テーマ4「労働」 ・レクチャー ・課題の設定 ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 ○外部講師による特別授業	・「労働」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。 ・外部講師の説明をよく聞いて、積極的に質問する。
	1月 2月 3月	○テーマ5「社会保障」 ・レクチャー ・課題の設定 ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現	・「社会保障」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。
学習の留意点・評価など			・年間テーマ「ともに生きる」に基づいて、現代のさまざまな「社会問題」について理解することができたか。 ・新聞記事などをおして「社会問題」についてより深く考察することができたか。 ・「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究することができたか。

教科名	公民科	科目名	社会問題
対象学年	高校3年	コース・選択	コースI (A1)
単位数	2単位	教科書 (出版社)	—
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事</li> <li>・自作プリント</li> <li>・その他</li> </ul>		
学習のねらい	<p>年間テーマ「ともに生きる」に基づき、現代のさまざまな「社会問題」について理解するとともに、新聞記事の収集などをおして「社会問題」についてより深く考察しながら、「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究する。</p>		
学習内容と流れ	学期・月等	学 習 内 容	留 意 点
	年間	「ともに生きる」を年間テーマとして、新聞記事の収集や専門的な講義などをおして、よりよい社会の在り方について探究する。	・日頃から新聞に慣れ親しみながら、社会への興味・関心を高める。
	4月 5月	○テーマ1「ジェンダー」 ・レクチャー ・課題の設定 ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現	・「ジェンダー」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。
	6月 7月	○テーマ2「貧困」 ・レクチャー ・課題の設定 ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 ○外部講師による特別授業	・「貧困」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。  ・外部講師の説明をよく聞いて、積極的に質問する。
	9月以降	○「社会問題」に関する講義 ・レクチャー ・まとめ・表現	・「社会問題」に関する専門的な講義を受け、高校で学んだ内容についての理解を深める。さらに、「ともに生きる」ことができる社会人になるために必要なことを自覚する。
学習の留意点・評価など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間テーマ「ともに生きる」に基づいて、現代のさまざまな「社会問題」について理解することができたか。</li> <li>・新聞記事などをおして「社会問題」についてより深く考察することができたか。</li> <li>・「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究することができたか。</li> </ul>		



教科名	公民科		科目名	倫理政経
対象学年	高校3年		コース・選択	コースⅡ（B2）、コースⅢ（C2）
単位数	2単位		教科書 (出版社)	高等学校現代倫理新訂版（清水書院） 最新政治・経済新訂版（実教出版）
使用教材	最新図説倫理（浜島書店）、最新図説政経（浜島書店）			
学習のねらい	政治・経済のさまざまな課題について主体的に考察し公正に判断するとともに、他者と共に生きる人間としての在り方生き方について考察する力を身に付ける。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学習内容	留意点
		4月	1 現代社会と青年の生き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期の発達課題</li> <li>・自己形成と社会とのかわり</li> </ul>
	5月	2 よりよく生きることを求めて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・哲学と宗教</li> <li>・日本の伝統思想の考え方</li> <li>・外来思想の受容と日本人の自覚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく生きることを追求したソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想、心の持ち方やよりよい生き方を求めた儒家や道家などの思想を理解する。また、仏教、キリスト教、イスラム教の三大宗教の教えについて理解する。</li> <li>・「おのずから」でとらえる日本人のものの考え方、八百万の神に示される神のとらえ方、清き明き心などの日本人の倫理観、日本の仏教の形成について理解する。</li> <li>・江戸期における儒教や国学の考え方の特色を学ぶとともに、明治以降に西洋思想をどのように受容したのか、またその中から生まれた思想について理解する。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代科学の考え方</li> <li>・人間の尊厳</li> <li>・人間性の回復を求めて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の尊厳について説いたカントや理性の具体化を主張したヘーゲル、幸福と正義の関わりを考えたアダム・スミス、ベンサム、J.S.ミルの思想について理解する。</li> <li>・ルネサンス以降の思想やベーコン、デカルトのものの考え方を学習することによって、近代の人間中心主義、合理的なものの考え方を理解する。</li> <li>・近代の合理主義を批判し、社会の仕組みの改革を主張したマルクスの社会主義、人間の主体性の回復を求めた実存主義などの特色について理解する。</li> </ul>
		1 民主政治とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民主政治の成立</li> <li>・基本的人権の確立</li> <li>・世界の政治体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民主政治がヨーロッパで生まれた経緯や社会契約説、権力分立の思想、議会制民主主義の成立と仕組みについて理解する。</li> <li>・基本的人権と法の支配の意義、自由権から社会権へ向かう人権の歴史的展開、人権保障の国際的な展開について理解する。</li> <li>・議院内閣制と大統領制の特色を三権分立の視点から理解するとともに、社会主義国家について理解する。</li> </ul>

学期・月等	単元	学習内容	留意点
学習内容と流れ	6月	2 日本国憲法の基本原理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大日本帝国憲法の性格を学ぶとともに、日本国憲法が制定されるまでの経緯について学習し、日本国憲法の三大原理について理解する。</li> <li>・日本国憲法における人権保障の考え方や法の下での平等の意義、自由権的基本権について理解する。</li> <li>・社会権的基本権の意義、生存権、教育を受ける権利、勤労権などの内容について理解する。また、基本的人権を実現するための権利などについても学習する。</li> <li>・環境権、プライバシーの権利、知る権利、アクセス権などの新しい人権について性格を理解するとともに、人権保障の進展と課題について考える。</li> <li>・日本国憲法に定める平和主義の内容を確認し、日本の防衛と自衛隊のかかわり、安全保障に関する日本とアメリカの関係などについて考察する。</li> </ul>
		3 日本政治機構	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三権の関係について理解し、国会の役割、構成と運営、現状と改革の動きについて考察する。</li> <li>・議院内閣制の仕組み、内閣の権限と国の行政組織を理解するとともに、行政の課題について考察する。</li> <li>・訴訟の種類、司法権の独立の意義と内容、日本の裁判制度、「憲法の番人」としての裁判所、裁判員制度などの司法制度改革について理解する。</li> </ul>
	7月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治の意義を確認すると同時に、地方公共団体の組織と働きなどについて理解し、地方自治と国政との関係、住民の政治参加の意義などについて考察する。</li> </ul>
		4 現代政治の特質と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代選挙の四原則、選挙制度の概要、日本の選挙制度の仕組みについて理解し、「一票の格差」など選挙制度をめぐる課題について考察する。</li> <li>・民主政治における政党や利益集団の意義と役割、現状と課題について考察する。</li> <li>・世論の意義を理解し、世論とメディアとの関係、大衆化した社会における政治意識などについて考察する。</li> </ul>
9月	1 国際政治のしくみと動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会の特質</li> <li>・国際紛争を避けるしくみ</li> <li>・国際連合の現状と課題</li> <li>・冷戦とその後の世界</li> <li>・軍縮への取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家の三要素、主権国家の成立、国家間の諸問題と外交、国際法の意義と種類などについて理解する。</li> <li>・国際紛争を避けるための勢力均衡と集団安全保障、国際連盟の特色、国連の仕組みについて理解する。</li> <li>・国連の安全保障への取り組みの現状と課題、平和維持活動の役割、国連の経済的・社会的役割について理解し、国際連合の課題について考察する。</li> <li>・第二次世界大戦後の東西の対立、1960年代の緊張緩和、多極化の動き、その後の冷戦の終結、冷戦終結後の紛争と対立などについて理解する。</li> <li>・米ソの軍備拡張競争と反核運動、国連の軍縮に向けた取り組みと成果について理解し、軍縮に伴う課題、信頼を育てることの重要性について考察する。</li> </ul>

学習内容の流れ	学期・月等	単元	学習内容	留意点
	10月	2 国際経済のしくみと動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貿易と国際分業</li> <li>・外国為替のしくみと国際収支</li> <li>・戦後国際経済の枠組みとその変化</li> <li>・対立と協調の時代</li> <li>・グローバル化する経済</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貿易の意義、自由貿易と保護貿易の考え方、企業の展開と国際分業の実態について理解する。</li> <li>・取り引きの決済方法としての外国為替の仕組み、為替レートの変動要因と影響、国際収支の仕組みと黒字や赤字の意味について理解する。</li> <li>・IMF-GATT体制成立の背景やその仕組み、貿易ルールにかかわるGATTの枠組みについて理解する。</li> <li>・1970年代の国際経済の枠組み立て直し、ウルグアイ・ラウンドとWTOの成立、国や地域間の貿易や経済の連携や協定について理解する。</li> <li>・グローバル化の時代の特色、金融の動きのグローバルな展開について理解し、世界経済の安定化に向けた課題について考察する。</li> </ul>
	11月	3 国際社会の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域統合の進展</li> <li>・変容する世界経済</li> <li>・国際的な格差の是正</li> <li>・地域紛争と難民問題</li> <li>・国境をこえて広がる地球規模の課題</li> <li>・日本の役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパにおけるECやEUの展開、アメリカやアジア太平洋地域における地域統合の動きについて理解し、地域統合の進展の理由などについて考察する。</li> <li>・ソ連における社会主義経済の成立と展開、ペレストロイカ以降の民主化とロシアの動き、中国における市場経済化の動き、多様化する世界経済について理解する。</li> <li>・南北問題の背景、南南問題などの動き、南北格差の是正を進める取り組みについて理解する。</li> <li>・民族と国家の関係がもたらす民族紛争、独立に伴う紛争、国家を持たないことが原因となる民族紛争、民族対立に伴って引き起こされる難民問題について考察する。</li> <li>・人口の増加や人口構成の変化などの世界の人口問題、資源の需給にかかわる国際的な問題、食料生産や食料不足などの問題について考察する。</li> <li>・戦後の日本外交のあらまし、国際平和や経済、環境面で日本が果たす役割、国際貢献について考察する。</li> </ul>
		1 経済のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済社会の変容</li> <li>・現代の企業</li> <li>・市場経済のしくみ</li> <li>・国民所得と経済成長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業革命などを契機に資本主義経済が成立したこと、アダム・スミスの考え、資本主義経済の変容と社会主義やケインズの理論、資本主義の現在について理解する。</li> <li>・企業の役割、企業の活動、株式会社の特色、国際化に伴う変化、企業の社会的責任について理解する。</li> <li>・市場の仕組み、寡占市場における価格の形成、独占禁止政策について理解する。また、価格機構が十分に働かない市場の失敗について考察する。</li> <li>・国の経済の指標であるGDPや国富などについて理解し、経済成長の意味や景気の変動について学習する。</li> </ul>

	学期・月等	単元	学習内容	留意点
学習内容の流れ	12月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融のしくみと働き</li> <li>・中央銀行の役割と金融の自由化</li> <li>・政府の役割と財政</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融システムの仕組み、資金を融通する方法としての金融制度、通貨制度、信用創造について理解する。</li> <li>・中央銀行の役割、金融政策について理解し、金融の自由化、国際化の動きや背景について考察する。</li> <li>・市場経済の限界を補う意味を持つ政府の経済的な活動について理解すると同時に、財政制度、租税と公債、財政問題について考察する。</li> </ul>
	2	変化する日本経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後復興と高度経済成長</li> <li>・産業構造の転換と国際経済環境の変化</li> <li>・バブル後の日本経済</li> <li>・中小企業と農業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次世界大戦後の経済復興にかかわる諸改革や高度経済成長の経過や背景について理解する。</li> <li>・石油危機や産業構造の変化、為替制度の変更、プラザ合意と円高不況、日米経済摩擦について理解する。</li> <li>・バブル経済崩壊後の日本経済について理解する。また、日本経済の現状と課題について、金融、雇用、国際経済などの観点から考察する。</li> <li>・中小企業の現状と役割、農業の現状と農業に関する諸政策について理解し、諸課題について考察する。</li> </ul>
	1月	3 豊かな生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立した消費者への道</li> <li>・労働者の権利</li> <li>・現代の雇用・労働問題</li> <li>・社会保障の役割</li> <li>・環境保全と循環型社会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者主権の意味や消費者問題の背景、消費者運動、消費者行政と関連法制の概要を理解し、消費者の自立に向けた取り組みについて考察する。</li> <li>・労働契約の特性、労働組合、労働運動、労働者の権利の必要性、労働に関する法制を理解する。</li> <li>・バブル経済崩壊以降の労働や雇用環境の変化、労働や雇用にかかわる様々な課題について理解する。</li> <li>・社会保障の意義と制度の歴史、日本の社会保障制度の概略について理解し、少子高齢社会における社会保障制度の在り方について考察する。</li> <li>・高度経済成長に起きた公害問題とその後の公害対策、新しい公害と環境保全について理解し、今後における持続可能な社会、循環型社会について考察する。</li> </ul>
学習の留意点・評価など	政治・経済のさまざまな課題について主体的に考察し公正に判断することができたか。他者と共に生きる人間としての在り方生き方について考察する力を身に付けることができたか。			
備考				